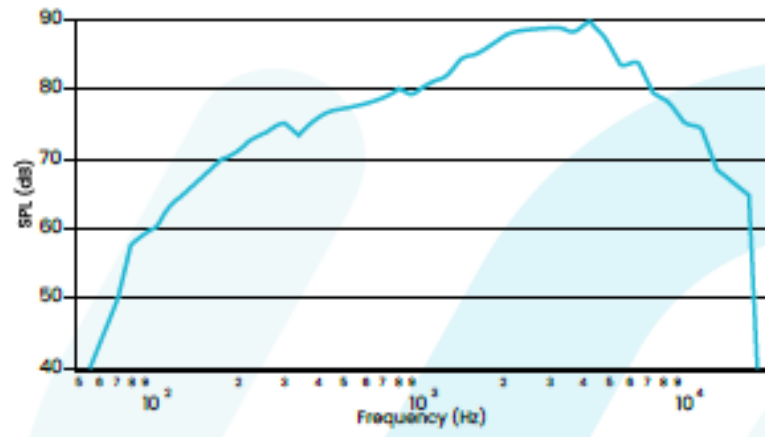


必ずご確認くださいませようお願いします

HSS スピーカー設置・設定に関してご注意頂く点

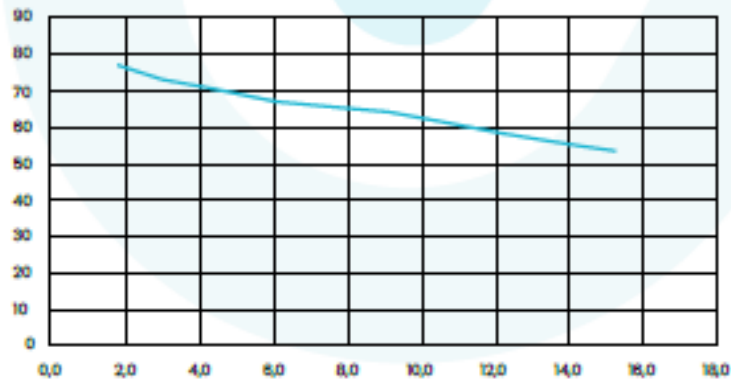
- 1) リスナーの方の顔に直接音が当たるように、スピーカーの向きを注意深く設定してください。非常に指向性が強いために、音の方向が少しずれるだけでも、聞こえ方に大きな差がでます。スピーカー角度を自在に調整できる取付金具をご使用になることをお勧めします。
- 2) 反射音によって指向性が損なわれる場合があります。反射音が顕著な場合は、スピーカーからの音が直接当たる場所（指向性が強いので特定が容易です）に吸音材を置く等の対応をとって頂きますようお願いします。
- 3) スピーカーとリスナーの間に障害物（薄い紙なども含め）があると、音が届かなくなります。スピーカーの前面には物が無い状態にして下さい。
- 4) 大音量を出すスピーカーではありませんので、騒音状態の激しい場所に設置される場合には、事前調査を行って下さい。音源からの入力過多の状態でご使用を続ける場合、反射音が顕著となり音が拡散する他、振動フィルムの寿命に影響を与えます。音量の調整は必ず直接音（反射音ではなく）を聞きながら行ってください。
- 5) 音量は2～3分程度経たないとピークに達しませんので、音量設定の際はご注意ください。
- 6) アンプに音量設定機能がついていないので、音源プレイヤーの音量コントロールもしくは、プリアンプ、ミキサーアンプをご使用頂きますようお願いします。
- 7) 音量を上げると音が歪む場合がございます。低音域が特に歪みやすい傾向にありますので、音の歪が認められる場合は、音量を下げる他、ミキサーアンプ等のEQで低音域の入力をカットするようにして下さい。音が歪んだ状態のままご使用を続ける場合は、振動フィルムの寿命に影響を与えます。
- 8) アンプを24時間以上連続して通電した状態にしないようにして下さい。24時間のうち、一定時間（2時間以上程度）は、アンプの通電状態がoffの状態になるようにして下さい。
- 9) アンプには on/off スイッチがついていないため、電源の入切で on/off を行って頂く必要がございます。
- 10) アンプからスピーカーに送信される高調波は干渉に非常に弱く、ノイズ発生もしくはスピーカー故障の原因となります。アンプとスピーカーの間は長さ10m以内、12AWG程度のスピーカーケーブルをご使用下さい。
- 11) スピーカーケーブルの長さが10m以内の場合でも、設置場所によってはノイズが発生することもありますので、ご注意くださいようお願いします。

- Bandwidth: from 300 Hz to 18 KHz*



- Acoustic pressure (dB) as a function of distance (m) @ 1 KHz

SPL (dB) vs Distance (m) @ 1KHz



- Directionality

